

JR東海労ニュース

9条堅持!



山岡けんじ

No.1855

2013年7月10日

JR東海労働組合

政府が2013年版自殺対策白書を公表 20歳代の死因の約半数が自殺とは!

政府は6月18日『2013年版自殺対策白書』を公表しました。

2012年の自殺者は1997年以来15年ぶりに3万人を下回ったとする一方で、20歳から39歳までの死因の第1位は自殺であり、特に20歳から29歳までの死因の半数近くが自殺となっています。また、20歳代においては「勤務問題」による自殺死亡率が上昇し続けており、2012年度では他の年齢層と比べ最も高くなっています。

白書は、このような統計を分析したうえで「勤務問題のみならず、関連が深い経済・生活問題、学校問題、そしてこれらが引き起こす健康問題に対し、若年層への効果的な取組を早急に実施していく必要がある」と述べています。

これに関連して、『JR東海』誌5月号に興味深いデータとその分析、会社の対応が記載されています。それによると「H25年1月末時点の病気休職者はH21年3月時点と比較し24%増加している。このうちメンタルヘルス不調による休職者が増加しており、病気求職者全体の74%を占めるに至っている」と現状が明らかにされています。このような現状を踏まえ、会社として「社員一人一人が自らの健康状態をよく知り各種制度を利用した健康の保持増進に努める（セルフケア）…メンタルヘルス不調について少しでも低減するべく会社全体で取り組むことが必要。社員のメンタルヘルスの状況をよりきめ細かく把握し、具体的アドバイスをするなど、セルフケアの向上を図った」と実績を記載しています。

しかし、社員の皆さん!会社は「健康増進はセルフケア（自助努力）」と知っているに過ぎません。メンタルヘルス不調による休職者が増加していることの原因・本質、職場環境については全く語られていません。

メンタルヘルス不調者増加の原因は「関西支社駅社員の自殺に象徴される『命令と服従の職場管理』根本原因」だとJR東海労は考えます。メンタルヘルス不調者を増加させるような職場実態を変えていくため、JR東海労は奮闘します。

**社員の皆さん、死んではいけない!
その前にやれることはたくさんある!**